

市報そおは 創刊 100 号を 迎えました!!

「市報そお」は平成 17 年 7 月 15 日発行の創刊号以来、今月号の発行をもって、創刊から数えて 100 号を迎えることができました。

平成 17 年 7 月 1 日の合併から、今年で 8 年目を迎えた曾於市。これまでの市報そおの表紙をめくりながら、ここでは曾於市の歴史を振り返っていききたいと思います。



創刊号 (2005 年 7 月 15 日発行)

曾於市誕生

記念すべき市報そお第 1 号の表紙は、曾於市役所の開庁式の写真です。



30 号 (2007 年 12 月 1 日発行)

解体され更地になった財部駅舎
建て替えのため、解体され更地になった財部駅舎の写真です。解体前の写真も掲載しました。



20 号 (2007 年 2 月 1 日発行)

曾於市消防出初式
出初式の恒例となっている美しい七色一斉放水の写真です。



10 号 (2006 年 3 月 31 日発行)

向江公園の桜
この年の 7 月に市の木に制定される「さくら」。春の訪れを告げる美しいさくらの写真です。

曾於市の
主な出来事

(過去の「市報そお」より抜粋)

平成 17 年

7 月 1 日

曾於市誕生

9 月 30 日

曾於市章の決定

平成 18 年

4 月 1 日

曾於市商工会発足

5 月 1 日

曾於市青年団発足

7 月 2 日

市花・市木・市歌制定

10 月 27 日

中岳ダム完工

平成 19 年

7 月 1 日

「曾於市市民憲章」と「宣言」を制定

7 月 31 日

「ぞお鹿児島農協財部支所石蔵倉庫」が国登録有形文化財に登録

11 月 9 日

環霧島会議発足



60号(2010年6月1日発行)

曾於市観光特産開発センター開所式
この年の5月1日に曾於市観光特産開発センターが開所しました。真新しい看板の写真です。



50号(2009年8月1日発行)

曾於市小学校水泳記録会
この年の7月23日に開催された第4回曾於市小学校水泳記録会の写真です



40号(2008年10月1日発行)

曾於市カヌー大会
この年の8月24日に開催されたカヌー大会。ドラゴンボートレースの写真です。



90号(2012年12月1日発行)

昔の道具で脱穀体験
月野小学校が、昔の足踏み脱穀機での脱穀に挑戦した時の写真です。



80号(2012年2月1日発行)

華やかな成人式
この年の1月3日、平成24年曾於市成人式が開催されました。新成人の笑顔の写真です。



70号(2011年4月1日発行)

中央幼稚園卒園式
末吉の中央幼稚園の卒園式の写真です。多くの園児たちが卒園しました。

平成20年 3月23日 やまびこ館(財部駅)完成
4月24日 曾於市観光協会設立
10月14日 霧島ジオパーク推進協議会発足
平成21年 10月6日 都城広域定住自立圏形成協定締結
平成22年 3月14日 曾於弥五郎IC〜末吉財部IC間が開通
4月末 宮崎県で口蹄疫が発生
平成23年 1月19日 新燃岳噴火
平成24年 1月13日 北別府学氏野球殿堂入り
3月末 財部北中学校、財部南中学校、南之郷中学校が閉校
4月2日 曾於消防署が開署

一〇〇号記念

市報そお歴代担当者座談会

先日、市報そお歴代担当者が集まり、座談会を行いました。
これまでの市報を振り返り、様々な思い出や市報に対する思いを語りました。

一〇〇号までの

道のり

松下貴史（以下、M） 「市報そお」は11月号で百号を迎えました。梅木さんは創刊号から46号まで、梅井さんは47号から82号までを担当されましたが、それぞれの思いをお聞かせください。

梅木康（以下、U） 百号ですが、本当に早かったなというのが、正直な気持ちです。合併して、8年も経ったんだなど。

M 市報の歴史が曾於市の歴史といえますからね。

梅井秀和（以下、K） 私が担当した期間（平成21年4月から平成24年3月）は、口蹄疫の発生や東日本大震災などの大きな出来事がありました。同じ号の中で、面白い話題を取り上げながら、同時にそういったシビア

な問題を取り上げなくてはいいない。特に口蹄疫の時は、急速に被害が拡大していったので、情報の収集、表現には注意しました。

印象に残っている

記事・写真

U やっぱり創刊号から3号までが、特に印象に残っていますね。合併当初は、市民の皆さんから様々な問い合わせがあり、曾於市の観光スポット、市役所の機構などを掲載しました。3号は44ページありますから。

M 市政要覧と市役所のパンフレットが一冊になったようなものですね。

U 現在のスタイルに近づいたのは、一年くらい経ってからですね。

M 印象に残っている表紙は？

U 弥五郎伝説の里で撮った花火の写真（平成18年9月号）ですね。良い出来だなど。満足している一枚です。

K 花火の撮影は一回も成功しなかった。梅木さんに色々教わって、挑戦したんだけど。

M 花火を表紙にしていましたよね？

K あれは偶然に撮れたもの。狙って撮影できた写真は一度も成功しなかった。個人的には、65号（平成22年11月号）から表紙の全面に写真を掲載するようになったことが一番の思い出ですね。

M 皆さんが表紙の写真を選ぶときのポイントは何でしたか？

K 人の顔が必ず入っていることですね。

U 私は、その月にあったイベントの中から選んでいました。その時々、曾於市の姿を掲載するように心がけていました。

M 私も最初は時事ネタを掲載していました。でも、過去の市報と似たような表紙になってしまふ。色々考えた結果、8月号から曾於市内の名所を表紙で紹介することにしました。まだまだ模索中です。



梅木康さん 経済課勤務
平成17年7月～平成21年3月担当

K 表紙やトピックスなどで担当者の特色を出せるから、色々なことに挑戦したくなるよね。
M そうですね。せっかくなので色々挑戦したい。できるだけ多くの人の目を引くような表紙にしたいですね。

市報担当になって

良かったこと

K 様々な場面を取材し、市内の情報の最前線にいたことができました。また、芸能人やスポーツ選手たちと話しができたことも大きな財産ですね。

U 取材に行くことで、様々な人や場所を知ることができましたね。今でも「写真は撮らないの」と声をかけられることがあります。

K 広報誌担当者でなければ、出会えなかった人、行っていな

いであろう場所はたくさんありますね。
M 私も同感です。それと、カメラに興味を持ったのも良かったですね。

市報作成での

苦労談・失敗談

U レイアウトやトピックスのタイトルには苦労しました。キャッチーなコピーが出来ずに、やたら固いタイトルになったり。失敗は戸籍の窓での誤字ですね。

M 人名を間違えると、せっかく書いた記事が台無しになってしまいますね。相手の方にも大変失礼になりますし。

K 私は取材先で車のバッテリーが上がったり、厳粛な雰囲気の中で最中に携帯電話が鳴ったりと、冷や汗をかきました。



梅井秀和さん 市民課勤務
 平成21年4月～平成24年3月担当

た。時間に余裕がなく、焦って取材をすると、必ずミスをしてしまう。

U 「鬼追い」の最中にカメラが動かなくなったこともありました。

M 私は「サマーフェスタ」と「どろんこ大会」の最中で。

K 私は「弥五郎どんの浜下り」の最中でした。写真は、その瞬間を逃すとやり直しがきかないからね。注意しないと。

曾於市において

市報の持つ役割

M 市民の皆さんは本当に良く市報を読んでくださっていますよね。

U 高齢者の多い曾於市では、市報は一番の情報媒体です。

M そうですね。だからこそ、市民が本当に欲する情報を、分かりやすく伝えるように心がけなくてはいいですね。

K 様々な場面で頑張っている人たちにスポットライトを当てることが出来るよね。記事にされた人たちは、以前にも増してやる気がでるだろうし、活動に共感する人も出てくるはず。そういうことが積み重なって、

最終的には、まちの活性化に繋がればいいと思う。

U 市報には本当に様々な役割がありますね。他には、歴史的な資料としての役割もあります。詳細な年月日も記載されているし、曾於市の歴史を伝える最良の資料です。

M 郷土史を作る際には、市報が重要な役割を果たしますよね。吉井記念展の記事（平成25年4月号）を書く際にも、昔の記事がとても役に立ちました。

今後の市報に

求めること

K これからも明るい話題や感動する話題など、人の心に訴えかける記事を掲載して欲しい。デジタル化の進む現代だけど、活字にはまだまだ可能性がある。読んだ人が、曾於市に住んで良かったな、若しくは住んでみたいなと思えるような誌面作りができればいいよね。

U これは自分が担当の時に出来なかったことなんだけど、市民の皆さんに問題提起するような特集を組んで欲しい。

M そうですね。これからは、



梅井さんの思い出の表紙
 （平成22年11月号）



梅木さんの思い出の表紙
 （平成18年9月号）



松下貴史 企画課勤務
 平成24年4月～現在

お二人が築いてきたものを継承しながら、より市民目線で、誰もが読みたくなる誌面作りをしていきます。